

編集者のことば

本号は、1992年度より始まった共同研究「大都市の地域経済構造変化に対応した環境の保全創造に関する総合的研究」の初めての特集号である。

本共同研究は、1992年度より4年間の予定で行なわれている。研究グループは都市経済グループ、都市社会グループ、都市環境グループと3つのサブ・グループに分かれてはいるが、総勢36名からなる大きな組織である。

1年目は、主として、各サブ・グループ内での各研究員の個別の研究を中心として研究が進められた。また、研究計画により広い視点を導入するという観点から、共同研究者の研究報告ばかりでなく、他大学などの研究者を講師に迎えての研究会を数回行なった。小林論文および齊藤論文はこのような研究会における報告に加筆・修正をお願いして掲載するものである。貴重な時間を割いて研究会の講師の労を取られただけでなく、原稿の形にくださった両先生にここで厚くお礼を申し上げます。

さて、小林論文は、創造的都市の歴史を振り返りながら、都市の創造性を開花させるための社会的・地域的環境条件について述べたものである。21世紀に向けての都市の発展性を創造性に求めるといように都市研究の幅の広さを要求するものとなっている。

増山論文は、これまで都市とは全く関係のない領域で行なってきた感性に関する研究をたとえば、都市の景観に応用するとどのような展開となるかについて論じたものであり、筆者のこの共同研究における方向性を示したものである。増山論文が心理学を基礎としたアプローチであるのに対し、都市景観に関して地理学を基礎としたアプローチが杉浦他による論文である。これまでの研究の蓄積から導出された手法を適用したものである。

浅見、吉川論文は共に土地利用に関するものである。浅見論文は、土地区画整理事業で用いられる各筆評価関数において島地の評価手法に問題点があることを指摘したものである。また、吉川他による論文は、土地利用メッシュデータを、国勢調査地域メッシュ統計と結合して利用することを目的として行なった集計と図化を示したものである。

齊藤論文は、財政学者の立場から、老人福祉費と固定資産税についての問題点を指摘したものである。大都市の中心部において高齢化が意外に進んでいることを考えると今後大きな問題となるテーマである。木村他論文は、同じく都市において大きな問題である環境問題を地域経済構造の変化との関連で考察したものであり、今後の研究の方向性を示した第一次報告というべきものである。

浅古他論文は、これも大問題である廃棄物問題について主として、焼却技術の面からのアプローチを行なったものである。共同研究としては、今後この面でのソフト面からのアプローチが望まれるところである。

最後の石田他論文は共同研究とは独立の一般投稿論文である。都市建築法制などが、都市デザイナーと呼ばれる人達に替わって現実の都市をデザインしており、「隠れた都市デザイナー」と言えるという仮説を日本の都市において実証しようとしたものである。

1993年9月

萩原 清子